

喜び溢れるまあるい学生会

喜びは身近にあります。身近にある喜びを感じて、周りの人に伝えることで、喜びが広がり溢れていきます。そして、感じた喜びを親神様、教祖に感謝することで、より一層喜びを感じられるようになります。感じた喜びを周りの人に伝えて喜びを通してつながっていくことで、まあるくなりまます。稿本天理教教祖伝逸話編の『二三五、皆丸い心で』で、「世界は、この葡萄のようになあ、皆丸い心で、つながり合うて行くのやで。」という言葉があります。丸い心でお互いにたすけあい、皆が親神様、教祖に喜んで頂きたいという同じ想いでつながっていくことでまあるくなっていけます。

一、親心を感じよう

日々の生活の中で、当たり前だと思っていることはすべて親神様の御守護であり、親心です。教理を学び、おつとめを勤めることで、親神様の親心を感じられるようになり、何事もありがたいと感じて、喜ぶことができます。

○教理を学ぶ

教理を学ぶことで、日々の生活の中に親神様の御守護がたくさんあることに気付くことができます。そして、起こってくる出来事に対して親神様の親心だと感じることができ、ありがたいと思えるようになります。

○おつとめを勤める

おつとめは場所に限らずどこでも勤めることができます。おつとめを勤めることで心のほこりを払うことができ、親心を感じられるようになります。

一、ひのきしんをしよう

ひのきしんとは、日々親神様から頂いている御守護への感謝を行動に表すことです。ひのきしんをすることで、気持ちが晴れ、心が明るくなり、周りの人を勇ませることもつながります。そして、今まで気付いていなかった御守護に気付き、ありがたいと感じることができるようになります。また、一人ですることが難しい時には、仲間と一緒に実践することで人とつながることができ、一人では気付かなかった喜びに気付くことができます。

一、教会につながるろう

教会は、それぞれの場所で親神様の思召を伝え広め、陽気ぐらしの拠点となる場所です。学生が教会に足を運ぶことで教会を活気づけ、明るい雰囲気をつくりだすことができ、陽気ぐらしへ向かっていくことができます。教会につながることで教会の人に喜んでもらうことができます。また、教会に集まってくる人とつながり、教会の人の話を聞くことで、教会のあたたかさを感じることができ、お道の教えを知ることができまます。学生会を通して仲間と一緒に教会につながり、喜び溢れるまあるい学生会を目指していきましよう。